

四川大地震と図書館の震災復興

中国国家図書館 立法決策サービス部 副主任
王磊

2008 年 5 月 12 日、四川省で大地震が発生した。

この地震の震央は汶川県映秀鎮、強さはマグニチュード 8 に達した。四川大地震¹は、1949 年の中華人民共和国成立以来、破壊力が最も強く、影響が及んだ範囲が最も広い地震である。四川省、山西省、甘肅省は地震災害による影響が甚大であり、その中でもとりわけ四川省が最も深刻であった。

四川大地震は、程度の差はあるが、237 県・市の 50 万 km²、4,000 万人に被害をもたらした。死傷者数と財産の損害はきわめて大きく、死亡者は 6 万 9,227 人、負傷者は 37 万 4,643 人、行方不明者は 1 万 7,923 人、直接の経済的損失は 8,451 億元（約 10 兆 2,000 億円²）である。地震による損害の 90%は四川省で発生した。

この大きな災害の中で、被災地にある図書館も被害を免れることはできず、何らかの損害を被った図書館がほとんどであった。地震は図書館の蔵書を破損し、計り知れないほど大きな損失をもたらしたのである。

一. 四川大地震発生前の四川省と四川省内の図書館

四川省は中国南西部の内陸に位置する省の一つである。面積は 48.5 万 km²、人口は 8,356 万人で、14 の少数民族がおり、その合計は 415 万人である。西部は高原と山岳地帯であり、高山と峡谷が交互に現われ、高地寒冷の気候である。東部は盆地であり、温暖湿潤な気候で雨が多い。省都は成都である。

旧石器時代には、四川地域ではすでに人類の活動が行われていた。4,000 年から 5,000 年前には、成都の平原は長江上流地域の文化の発祥地であり中心であった。殷と周の時代には、四川地域には蜀国と巴国（はこく）という 2 つの国が存在した。それ以降、交代と変遷を経ながら、四川では悠久の歴史文化が現在もなお続いている。豊かで貴重な歴史文化遺産と自然文化遺産が残されており、しかもその独自性は際立っている。

四川は文化が豊かに蓄積された地域であり、木版印刷技術発祥地の一つで、古くから豊富な官府蔵書（役所が収集した図書）、個人の蔵書、学校・講学所の蔵書がある。現代的な

¹ 中国では「汶川地震」と呼ばれているが、本訳稿では日本で通常使用されている「四川大地震」と表記する。

² 1 元は約 12 円（2011 年 10 月現在）。

意味での図書館は、四川でも 100 年以上の発展の歴史がある。公共図書館、高等教育機関の図書館、科学研究機関の図書館を 3 つの主要な柱として、その他の各種図書館がそれを補う形で、すでに相当規模の図書館体系を形成している。

四川大地震発生前の 2007 年末の統計によれば、四川省には 142 館の公共図書館がある。省・地級市・州の図書館が 21 館、県・県級市・区の図書館が 120 館である。その他、61 の県級行政区には単独の図書館はないが、文化館（文化娯楽施設）と合同で図書館が設置・運営されている（この統計には含まれていない）。公共図書館の館員は合計 1,699 人、蔵書は合計 1,745 万 9,000 冊、省全体で古典籍は 163 万冊である。

四川省の高等教育機関の図書館は 73 館、館員は 2,224 人、紙媒体資料は 5,154 万冊である。

四川省の科学研究機関の図書館としては、中国科学院成都文献情報センター、四川省農業科学院文献ネットワーク室、四川省社会科学院文献情報センター等の、科学研究組織に所属の図書文献機関が挙げられる。

これらの他に、四川省には、114 の中等専門学校、5,000 余りの中学校、1 万余りの小学校に様々な規模の図書館・図書室がある。

二. 四川大地震による図書館の被災状況

四川大地震によって、四川省の図書館は重大な損害を受けた。

公共図書館では、汶川県、北川県、青川県、茂県の 4 の県級図書館と、242 の郷鎮総合文化センター（一部図書室を含む、以下同じ）、11 の文化情報資源共有プロジェクト基層サービスポイントが全壊した。また、29 の県図書館、235 の郷鎮総合文化センター、16 の文化情報資源共有プロジェクト基層サービスポイントでは、損壊による倒壊の恐れが生じた。その他、25 の県図書館、382 の郷鎮総合文化センター、29 の文化情報資源共有プロジェクト基層サービスポイントが、何らかの被害を受けている。そして、1 万 3,000 台の設備と 182 万 2,400 冊の図書が破損した。各地の図書館の直接の経済損失は 4 億 3,600 万元（約 53 億円）に達する。破損した図書の中には、地域性と民族性に富んだ地方文献が大量に含まれており、その損失は補いがたいものである。

四川省の高等教育機関（大学・高等専門学校等）は、地震により校舎面積全体の 42% にあたる 1,000 万 m² (10 km²) の校舎が被害を受け、破損した図書資料の数は 40 万冊に達した。成都大学都江堰校区図書館、阿壩（アバ）高等師範専門学校図書館等、多くの高等教育機関の図書館は、損壊が深刻なために使用し続けることができなくなった。

三. 図書館による救援活動とサービスの復旧

四川大地震の発生後、被災地の図書館は、地震による甚大な被害を受けながら、同時に自ら積極的な救援活動を行い、また全国の図書館界と協力して積極的な災害救援活動を行った。

1. 災害救援活動

四川大地震が発生した午後 2 時 28 分の 1 時間後、四川省図書館は災害救援活動本部を立ち上げ、地震発生後 2 時間後、四川省図書館及び四川省図書館学会は担当者を重度被災地の一つである都江堰市に派遣して、被災状況の調査を行った。6 時間後には、四川省図書館及び四川省図書館学会事務局は被害の大きかった地域のほぼ全ての図書館と連絡を取ることができた。さらに地震発生後の 2 日目、四川省図書館は『地震避難の常識と自己救済、相互援助について』、『地震の知識』、『地震被災地におけるメンタルヘルス』、『地震発生後のメンタル予防』等の資料の作成に着手し、5 日目にはこれら震災救援の知識に関する資料 40 万部が出来上がり住民への配布を開始した。同日、綿竹市図書館は初の臨時閲覧サービスポイントを設置し、その後、各被災地でも次々にテント図書館が設置され、被災地住民への閲覧サービスが行われた。6 日目には、四川省図書館による第一陣救援物資が、重度被災地の図書館員へと送られた。

2. 被災地図書館のサービス復旧

四川大地震の発生後、被災地の道路や橋は大きく損壊して交通が遮断され、情報・連絡のやり取りが困難で、被災地の住民は基本的な生活もままならず、緊急救援物資が不足する状態となっていた。また同時に、瓦礫の中に閉じ込められている人を速やかに助け出す必要がある等、極めて大きな困難に直面していた。そうした状況下でありながら、現地の図書館員は懸命な努力を払って何とか環境を整備し、積極的に災害救援活動に参加するなかで、迅速にサービス復旧を行った。

被災地の図書館ではテントやプレハブで臨時の閲覧室が設けられ、また被災者の避難所にも図書室が設置された。被災後 1 か月内に被災地の図書館が設置した図書サービスポイントは 35 か所に及んだ。

3. 図書館界の相互救援

四川大地震の発生後、中国国家図書館や中国図書館学会等の機関はまず四川省図書館学会と連絡を取り、四川省における図書館の被災状況の収集と取りまとめを行った。また、国家図書館の主導及び中国図書館学会の呼びかけのもと、全国の図書館により、義援金の提供、図書の寄贈、被災図書館のための職員研修等、様々な形での救援活動が続々と行われた。

地震発生後、汶川県、北川県等の十数県が超重度被災地に指定された。これら地域の図書館員は家を失って帰ることができず、救援に頼る生活を送っていた。地震発生後 10 日後、四川省図書館学会と四川省高等教育機関図書館業務委員会の共同で、図書館震災救助支援団が組織され、超重度被災地への救援や慰問を行うとともに、同地の図書館員のために食糧、食用油、薬品、テント等が複数回にわたって送られた。

また地震後、図書館界及び企業の有志による民間の震災救援慈善プロジェクト「図書館ファミリー」活動が開始された。現場の問題に即して援助金を送る等、被災地の 500 余名の図書館員に対して援助を行った。

さらに、海外及び香港、マカオ、台湾の図書館界からも、お見舞いのメッセージが寄せられたり、援助基金が設立されたり等、被災地域の図書館に対して多くの支援が寄せられた。

四. 図書館の震災復興

四川大地震の発生後、一連の救援活動及び過渡的な避難措置によって、被災地の住民は最低限の生活を取り戻し、震災後の最も困難な局面を乗り切ることができた。しかしながら、被災地住民が日常生活を取り戻すためには、震災からの復興再建が不可欠である。

1. 震災復興再建計画

四川大地震からの復興再建は、被災地住民の直接的利益及び被災地域の長期的発展に関係するため、国家、地方等の様々なレベルにおいて、復興再建活動は極めて重要視された。

2008 年 6 月 8 日、国務院は「四川大地震後の復興再建に関する条例」（国務院第 526 号令）を公布し、続いて文化部³は「公共文化施設の震災復興再建計画に関する指導意見」を公布した。この 2 つの法規は、被災地が救援復旧の段階から復興再建の段階へと移行することを示している。

「四川大地震後の復興再建に関する条例」は、過渡的避難措置、災害状況の調査及び評価、復興再建計画、復興再建の実施、資金調達及び政策的支援、監督管理、法的責任等の観点から各方面の復興再建の方針を定めたものである。

「公共文化施設の震災復興再建計画に関する指導意見」は、公共文化施設における復興再建についての指導方針と原則を定めており、特に文化遺産と民族文化の特色を保護して被災地住民の心の拠り所を再建する必要性を指摘している。市、県、郷鎮、村の 4 つのレベルでの公共文化施設の再建について、その建設目標を明確にしたうえで、文化館、図書館、博物館、劇場、劇団、郷鎮総合文化センター、村文化室等、各文化施設の種別と特色に応じて、それぞれの土地選定条件、建設用地、建物規模、建設内容を始めとする面積指標や建設条件を規定している。

2008 年 6 月 18 日、国務院弁公庁は「四川大地震後の復興再建のための一対一支援方案」を公布し、「一対一支援の内容、方式及び任務」と題した章で、「学校、病院、テレビ・ラジオ、文化・体育、社会福祉等の公共サービス施設の復旧と建設」の必要性を明示し、「一つの省が一つの被災県を支援する」方針に基づいて、19 の省と 20 の被災県の間で一対一の支援関係を構築した。

2008 年 6 月、四川省政府は「四川震災再建計画大綱」を公布し、四川省文化庁は「四川

³ 部は日本の省に相当

省文化復興再建計画」で四川省の文化施設建設に向けての具体的な手筈をしっかりと整え、四川省被災地の図書館の再建が議事日程に組み込まれた。

文化分野の事項も、復興再建活動の中に大いに盛り込まれている。前後して「文化部による四川大地震後再建計画提綱」が公布されたが、その「計画」は主に、公共文化サービス計画、文化遺産及び民族文化保護計画、文化市場及び文化産業計画、過渡的避難措置期における文化建設計画からなっており、文化分野における復興再建の全体目標が打ち出されている。また「四川大地震後の復興再建のための一対一支援活動の実施に関する通知」が公布され、文化施設に対する一対一支援活動の実施が求められた。そのほか、四川省の12の超重度被災地及び26の重度被災地、合わせて38県（県級市、市轄区）における公共文化施設の再建用地及び施設再建にかかる必要経費についても、詳細な試算が行われ、関連の部や委員会に参考として提出された。

2008年9月、国务院により「四川大地震災害復興再建総合計画」が公布され、復興再建活動は具体的な実施段階に入った。

2. 中国国家図書館の震災復興再建活動への積極的な参加

中国国家図書館は、中国図書館界の重要な一員として、四川大地震の全過程において、各種救援及び復興事業に積極的に参加し、極めて大きな役割を果たした。

災害救援段階において、国家図書館が主導し、中国図書館学会と協力する形で、災害支援、四川の復興を呼び掛ける提案書を全国の図書館界に送付すると、全国の図書館界は続々とこれに応じ、義援金、図書の寄贈、義援物資の提供や、慰問、ボランティアの派遣等、様々な形で被災地の図書館を支援した。

災害救援活動がおおむね終了し、震災復興再建計画の策定に着手した段階で、国家図書館は『四川大地震震災復興情報専報4』を発行した。この専報は温家宝総理の重要な指示を受けており、国务院幹部、震災復興に参加する各部・委員会の各クラスの幹部及び被災した3省の幹部に送られた。

『専報』は中央指導機関の震災復興に関する戦略的措置の策定をターゲットとして、被災地の実際の需要に基づき、国内外の災害、被災状況及び災害後の復興再建の事例等に関する調査及び整理を行い、国家による総合復興計画の科学的、包括的な策定のため、迅速な情報提供サービスを実施した。

国家図書館は、被災地図書館の被害状況及び被災地で至急必要とされている図書雑誌の調査をもとに、短期間のうちに35万冊の書籍を準備して被災地に送り、さらに図書館界の力を積極的に結集して、被災地における図書館復興のため、人材育成訓練等の支援を実施した。

2009年5月、四川省図書館において、中国国家デジタル図書館四川分館の開設調印式が挙行された。国家図書館が中国国家デジタル図書館四川分館を通じて、四川省に対してよ

⁴ 原文は『汶川地震災後重建信息専報』

り完全な国家デジタル図書館のデジタル資源情報を提供することで、四川省の図書館は国家図書館学術講座の中継を受けたり多数の資源が利用できる等、多くのサービスを楽しむことができるようになり、社会公衆が平等な閲覧権を保持するための、新たな公共文化サービスのプラットフォームとなっている。

2010年3月、国家図書館は「県級デジタル図書館推進プロジェクト」の被災地復興援助活動を実施し、50の四川大地震超重度被災区、重度被災区及び一対一支援県に対して、それぞれ1テラバイトのデジタル資源を送り、これらの県図書館の資料構築及びサービスを促進した。

今年5月、四川大地震3周年にあたり、被災地の公共文化サービス能力を向上させ、公共文化サービスを飛躍的に発展させ、住民が文化サービスを楽しむよう、国家図書館は「国家デジタル図書館推進プロジェクト」のもと、国家デジタル図書館設立の成果を利用し、四川省文化庁、四川省図書館と共同で、良質なデジタル資源の送付、図書資料の寄付、文化講座及び展示会の開催、被災地の図書館業務従事者に対する専門家による研修訓練の実施等、様々な方法を通じて、被災地に対するよりいっそうの文化再建援助事業を行った。

3. 四川省図書館の復興状況

國務院、文化部及び四川省の復興再建問題に関する指導方針と一連の公布文書の規定によれば、四川大地震被災地における図書館の復興再建とは、決して震災前の図書館の建物の修復と再建のみに限られず、四川省図書館の長期的な発展要求を十分に考慮して進められる計画及び再建である。被災地の図書館にとって、四川省図書館の短期的復興と長期的発展との関係を適切に処理することは、次の段階における図書館の発展の基礎を築く歴史的機会の一つでもある。

2011年4月までに、四川大地震被災地の41,130の国家再建項目のうち、すでに95%弱が完工し、再建が達成された項目は、計画の95%を占めている。すでに完了している投資は、計画上の全投資の95%を占めており、投資額の合計は8,851億元（約10.7兆円）にのぼる。

災害復興計画に基づき、四川省図書館の再建が着工し、現在、計画通りに進んでいる。汶川県、北川県、茂県等27の重度被災区の市県図書館が再建される予定で、新しく建てられる図書館は、建物面積も耐震性能も地震前よりはるかに高い水準となっている。現在、北川県図書館、都江堰市図書館、大邑県図書館、彭州市図書館、崇州市図書館、綿陽県図書館等、すでに多数の図書館の建設が完了しており、2011年9月末までには、すべての再建項目が完成する見込みである。

五. 結語

四川大地震から今日まで、すでに3年が経過したが、この地震がもたらした影響は今

日もなお続いている。中国は、世界で最も自然災害が深刻な国家の一つである。災害の種類が多く、発生地域は広く、その頻度が高く、被る損害も大きい。また、地球の気候変動及び中国経済社会の急速な発展を背景として、中国の自然災害がもたらす損失はさらに拡大する傾向にある。

国務院の承認を経て、2009年より毎年5月12日が全国の「防災・減災の日」と定められた。一方では、我が国の防災・減災に対して関心を有する社会各界の要求に対応しつつ、もう一方では、前事を忘れず後事の師とするよう国民に注意を促して、我々は災害の予防をよりいっそう重視し、災害による損失を減少させるよう努力している。「防災・減災の日」の創設を通じて、全国的な防災・減災の宣伝教育活動を定期的に行い、社会各界の防災・減災活動に対する関心をさらに高め、社会全体の防災・減災意識を強化し、全国民に防災・減災知識及び地震対策を普及推進して、様々なレベルでの総合的な減災能力を高め、自然災害による損失をできる限り軽減させる努力がなされている。